

平成17年度5回一次電池部会開催

平成18年3月14日機械振興会館において、後藤部会長（ソニー株）を議長に、平成17年度第5回一次電池部会を開催した。本年度最後の部会ということで、各委員会からは平成17年度活動実績と平成18年度活動計画についてそれぞれ報告が行なわれた。

1. 技術委員長より吉田氏の紹介

（財）日本科学博物館からの依頼で、「一次電池技術の歴史」をまとめることになった吉田氏（東芝電池OB）の紹介が行なわれた。

また、IEC100周年行事に当たり、古見氏（松下電池OB）が論文を投稿することになったことも合わせて紹介された。

2. 事務局報告

販売統計は、平成17年（暦年）の数量ベースで前年比99%、金額ベースで前年比98%であった。今年1月度は100%を若干上回り好調なスタートとなっている。

J-MOSSのグリーンマークは、家電7品目（TV、PC、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコン、衣類乾燥機）が対象で、電池は対象外である。

最近のEU電池指令の審議進捗状況は、Pb規制値について審議され5月にこの案件で調停委員会が開催される予定になっている。



3. 委員会報告

(1) 広報総合委員会（佐藤委員長）

平成17年度の活動実績と平成18年度の活動計画について報告。バッテリー賞は従来のパーティ形式から、平成18年度は子供中心の表彰式（野球教室実施）に変更することを計画、理事会の承認を得る予定である。

(2) 業務委員会（代理 事務局）

平成17年度の活動実績と平成18年度の活動計画について報告。平成18年度は活動予定として需要予測を計画。その活用を考えた活動の必要性が論議された。また、各社のPR方法について委員会で論議したことも紹介された。

(3) 技術委員会（筒井委員長）

平成17年度の活動実績と平成18年度の活動計画について報告。JIS、IECの活動状況やTC35国際幹事業務の進捗状況について報告された。

(4) 環境対応委員会（佐藤委員長）

平成17年度の活動実績と平成18年度の活動計画について報告。台湾の「制限乾電池製造、輸入及び販売」広告草案と中国RoHSについての説明がなされた。

(5) 資材委員会（熊谷委員長）

平成17年度の活動実績と平成18年度の活動計画について報告。海外調達材料が品質面で問題が多いことへの対応が必要。06年度は中国電池メーカー使用材料の調査を行なっていく。

(6) 器具委員会（福井委員長）

平成17年度の活動実績と平成18年度の活動計画について報告。当初の計画案以外として、現在話題になっている“防犯ベルの規格化”が子供たちの安全のため政府から提案があり、新規テーマとしてとりあげることを要請された。

(7) PL委員会（金子委員長）

平成17年度は乾電池の重要クレームのまとめを行なったが、今後は液漏れ事故防止のため、器具委員会や広報総合委員会との連携を強化していく。

4. 今年度の決算、来年度の予算について

来年度の一次電池部会の予算については、今年度予算の5%削減で作成。審議の結果、決算予想および予算共に原案通り承認された。

第38回小形二次電池部会を開催

平成18年3月1日、中谷部会長（三洋電機株）を議長に、小形二次電池部会を開催した。

冒頭に、部会長と専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会より活動報告が行われた。

本年度最後の部会であるので、各委員会からは平成17年度の活動実績と平成18年度の活動計画が報告された。

1. 中谷部会長挨拶

電車の切符は改善が進み、厚みも薄くなりお金を出した満足感が薄れてきたが、Suicaカードの技術は素晴らしい。このカードには電池は入っていない。これに電池機能を付加したら、さらに大きな活用があるのではないか。電池の活用範囲は拡大する一方である。

2. 杉野専務理事挨拶

世の中は規制・標準化へ向かっている。あの方の言葉を借りると“日本は、商品開発や



生産管理および品質は世界に冠たる地位にあるが、標準化は二の次”。バランスが求められる。電池工業会活動の基本の一つは、ここに

あると思う。来年度はさらに取り組みを充実していきたい。

3. 委員会等の報告

(1) 技術委員会（野上委員長）

平成17年度の活動実績として、IEC、JIS、SBA各規格の改訂を行なった。平成18年度の活動予定としては、IECでは市販用Ni-MH電池の規格化等が必要になる。また、IEC100年記念行事への参画も求められている。UL規格のANSI規格化についても参加要請を受けている。

(2) 業務委員会（永峰委員長）

平成17年第4四半期の生産実績は、ニカド電池で前年比86%、Ni-MH電池で前年比107%、Liイオン電池で前年比107%、小形シール鉛電池で88%であった。Liイオン電池は好調を維持しており海外生産分も増加している。ニカド電池やNi-MH電池等は海外生産のシフト化が進んでいる。平成18年度の活動計画は、需要予測、生産予測および用途調査に取り組んでいく。

(3) 広報総合委員会（佐藤委員長）

平成17年度の活動実績と平成18年度の活動計画について報告。平成17年度は、全電池を対象に電池の正しい使い方及びリサイクルの推進等のPR活動、電池フェスタ、バッテリー賞、テレビパブ、展示会出展等、積極的に展開した。平成18年度の活動も、前年同様に積極的に展開していく。バッテリー賞については、改革案について検討している。

(4) 海外環境委員会（佐藤委員長）

昨年12月のEU電池指令第2読会の決議を受け、本年5月には調停委員会を行い10月頃には新電池指令が発効する見込みである。平成18年度は、世界の環境規制の冊子改定、EUおよび中国の環境規制の動向調査を主体に取り組む。

(5) PL委員会（馳委員長）

日中産業界の模倣品対策の現状について報告。今後は日中産業界（JEITAとCECC）共同で、模倣品による被害状況について調査する予定。平成18年度の活動計画は、表示ガイドラインの改訂等を中心に取組んでいく。

(6) 国連対応委員会（森脇委員長）

平成17年度第4四半期のBAJ-PRBA会議の活動状況について報告。新電池系のLi合金負極については、Li1次電池同様に輸送規制につながる懸念される。平成18年度の活動計画は、国連会議の決着を12月までに終えることとLiイオン電池の輸送手引書の改訂を行なう予定である。

(7) 再資源化委員会（新井委員長）

平成17年度は、電池への化学記号の表示とスリーアローマークの表示を同時に行なうことを提案。国際標準化に向けて提案していく。平成18年度の活動計画は、リサイクルマーク標準化の推進やCo系以外のLiイオン電池の再資源化の推進、識別表示の検討等を進めていく。

(8) 有限責任中間法人 JBRC（生川専務理事）

平成17年度の回収状況は、ほぼ前年度並みを達成。また、イベント出展やリサイクルキャンペーンを積極的に展開した。平成18年度の活動計画は、回収量の前年値以上の確保と新Liイオン電池の再資源化の調査に着手する。

4. 平成18年度の予算審議

平成18年度は、海外対策関連で出張が大幅に増えるため、部会予算の増加を提案。審議の結果、海外での標準化が日本以外で進んでいる以上、増加はやむなしとして、原案通り承認された。

平成18年 経済産業省企業活動基本調査に 御協力ください

経済産業省では、我が国企業における経済活動の実態を明らかにし、経済産業政策等各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として、平成4年以降「経済産業省企業活動基本調査」（指定統計第118号）を実施しており、本年につきましても、6月1日現在で実施いたします。

調査の対象は、別表に属する事業所を有する従業者50人以上かつ資本金3,000万円以上の会社で、会社全体の数値をご報告いただきます。

調査票の提出は、紙調査票によるほか、インターネットからオンラインで提出することができます。オンラインの利用申込み資料は、調査票等の調査関係書類と同時に経済産業局を経由し、5月中に郵送いたします。

調査の結果は、平成19年3月末に速報の公表を予定しており、ご報告いただいた会社におかれましては、当省で作成した統計情報を送付させていただきます。

皆様から提出いただいた調査票につきましては、統計法に基づき調査内容の秘密は厳守され、統計を作成する目的以外には使用されることはありませんので、調査に対するご協力をお願いいたします。

(別表)

鉱業、製造業、電気業、ガス業、卸売業、小売業、クレジットカード業、割賦金融業、一般飲食店のほか、下記の産業の括弧内の業種が対象となります。

○情報通信業（ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業、インターネット付随サービス業、映画・ビデオ製作業、テレビ番組制作業、新聞業、出版業）

○教育、学習支援業（外国語会話教室、フィットネスクラブ、カルチャー教室（総合的なもの））

○サービス業（デザイン・機械設計業、エンジニアリング業、冠婚紺葬祭業（互助会を除く）、写真現像・焼付業、ゴルフ場、ボウリング場、遊園地・テーマパーク、機械修理業、物品賃貸業（レンタル業を除く）、広告代理業、商品検査業、計量証明業、ディスプレイ業）

今回は鉛蓄電池の規格の歴史についてお話しします。

明治29年（1896年）二代目島津源蔵氏が蓄電池極板を試作したことに端を発し、蓄電池は通信用や予備電源として広まり、昭和初期には、さまざまな分野に使われるようになってきました。特に、自動車は徐々に増加し、外国車用バッテリーの修理に必要な極板の需要が発生し、同時に国産の自動車用バッテリーも製造され始めました。

昭和10年（1935年）JEA（電気協会関西支部）が『据置蓄電池』規格を作成し、同年臨JES（工業品規格統一調査会 臨時日本標準規格）がアンチモン地金の規格を作成しました。

昭和12年（1937年）JEAは『船舶用蓄電池』規格、『自動車用蓄電池』規格を加えました。

昭和23年（1948年）JES（工業技術庁日本標準規格）となり、昭和26年（1951年）JIS（通産省日本工業標準調査会 日本工業規格）が本格的な『自動車用蓄電池』（JIS D 5301）、『自動二輪・三輪車用蓄電池』の規格（JIS D 5302）を作成しました。自動車用の規格は、『1種モノブロック蓄電池』、『2種モノブロック蓄電池』、『本箱蓄電池』に分類されています。

昭和27年（1952年）『据置蓄電池（開放型）』（JIS C 8703）が制定されました。



高野山電鉄細川変電所に納入した据置用電池（1930年）

昭和30年（1955年）『密閉型据置蓄電池』（JIS C 8704）の規格ができました。この後は、1車種増えるごとに電池形式を増やしてきました。

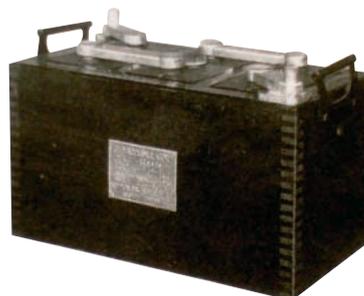
昭和39年（1964年）に蓄電池協会は、団体規格として蓄電池工業会規格（SBA規格）の制定をきめ、蓄電池にかかわる標準化事業の取り組みを開始しました。

一方、1908年に発足した国際規格のIEC（International Electrotechnical Commission）への対応は、**昭和50年（1975年）**IEC国内対策委員会が設置され、国際会議への委員派遣は、**昭和57年（1982年）**にTC21およびSC21A総会への出席からです。

製品規格は、技術の進歩など時代と共に変化して行くもので、制定後は定期的に審議され、「確認－改正－廃止」等の手続きが取られています。



フォード用(左)・シボレー用(右)自動車電池



木箱入り蓄電池

平成18年3月度の電池工業会活動概要

部会	開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項	
特別会議	9-10日	蓄電池設備講習実施委員会	H18年度の講習テキスト改訂、修了考査問題の企画検討、他	
	15日(水)	広報総合委員会	H18年度活動予定およびバッテリー賞開催方法の検討	
	16日(木)	新種電池委員会	H18年度計画審議、ISE釜山会議最終まとめ	
二次電池部会	3日(金)	自動車用鉛分科会	JISD5301規格協会最終案の審議他	
	6日(月)	二次PL委員会	補修市場品問題、国土交通省対応審議他	
	7日(火)	ハイブリッドリサイクル研究会	ハイブリッド車用NiMH蓄電池からの希少金属再生研究	
	7日(火)	二次電池部会	H17年度事業報告・H18年度事業計画およびH18年度予算	
	8日(水)	アルカリ据置分科会	IEC文書回答審議、他	
	10日(金)	用語分科会	新JIS対応策の審議、SBA規格様式の改正案審議	
	10日(金)	資材委員会	自動車用電池リサイクルスキームの検討	
	15日(水)	据置鉛分科会	SBA規格改正審議他	
	16日(木)	JARI	EV車両助成審議委員会	
	22日(水)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討	
	22日(水)	電気車用電池リサイクル分科会	電気車用電池リサイクルスキームの検討	
	23日(木)	自動車電池技術分科会	H18年度キャンペーン用語の審議検討他	
	23日(木)	直需分科会	自動車用電池リサイクルスキームの検討	
	24日(金)	自工会打合せ	36V電池端子IEC規格化の打合せ	
	24日(金)	産業電池技術分科会	蓄電池設備の交換部品実績調査、蓄電池設備の劣化診断指針の見直し、他	
	27日(月)	充電器分科会	据置蓄電池キュービクルの改訂審議及び浮動充電用整流装置の保守・取扱いに関する技術指針の改定審議	
	27日(月)	合同PL委員会	H18年度合同委員会計画の審議、他	
	29日(水)	設備維持規格標準化委員会	設備維持規格の標準化の審議	
	小形二次電池部会	1日(水)	小形二次電池部会	H17年度事業報告・H18年度事業計画およびH18年度予算審議
		9日(木)	欧州EuP指令国内委員会	日本側事務局JEMAにオブザーバ参加、進捗確認
10日(金)		IEC国際環境規格国内委員会	経過1年後進捗整理と今後の進め方の確認	
10日(金)		工場環境委員会	ISO14001、PRTR、省エネ、法条例改正等についての情報交換	
13日(月)		ICAO会議国内委員会	H17年11月に行われたICAO会議の報告会	
15日(水)		JMC貿易環境委員会	欧州規制について最新情報の交換	
17日(金)		再資源化委員会	日本リサイクルセンター見学、リチウムイオン電池分別再資源化の検討	
22日(水)		JEITA知財会議	中国模倣品国内対応会議	
22日(水)		Li二次技術分科会	H18年度計画日程、部品英文名称、IEEE、海外安全規格審議	
23日(木)		ニカド・ニッケル水素分科会	H18年度計画日程、海外安全規格審議	
27日(月)		合同PL会議	小形二次、一次、鉛PL合同取組み会議	
29日(水)	業務委員会	2月度販売状況の検討、需要予測まとめ、生産予測の検討		
一次電池部会	3日(金)	器具委員会	H17年度活動成果まとめ及びH18年度活動計画作成	
	14日(火)	一次電池部会	H17年度事業報告・H18年度事業計画およびH18年度予算審議	
	16日(木)	JIS/IEC小委員会	H18年度計画および安全規格対応等検討、IEC100年記念論文概要	

単3形・単4形の組み合わせ自由に4本まで充電可能！
「eneloop」用の充電器・充電器セットを新発売

三洋電機株式会社

三洋電機株式会社は、新ビジョン「Think GAIA」第一弾として商品化した、次世代ニッケル水素電池「eneloop（エネループ）」用の新型「eneloop」充電器を3月21日より発売。

品名	単3形・単4形兼用充電器	単3形・単4形兼用充電器セット (単3形eneloop充電電池4個付)
愛称	eneloop充電器	eneloop充電器セット
品番	NC-TG1	N-TG1S
メーカー希望小売価格	2,940円 (税抜き2,800円)	オープン
発売日	2006年3月21日	



<定 格>

・ニッケル水素電池「eneloop」用 単3形・単4形兼用充電器

品 名	充電器		
品 番	NC-TG1		
入 力	AC100-120V/50-60Hz		
適合電池 と 充電時間	適合電池		充電時間 1~4個
	ニッケル水素電池 「eneloop」	単3形 HR-3UTG (typ.2000mAh, min.1900mAh)	約7時間 約6時間
		単4形 HR-4UTG (typ.800mAh, min.750mAh)	
表 示	充電中：緑色LED点灯 充電完了：消灯		
寸 法 (充電器本体)	70 (W) × 29 (D) × 110 (H) mm		
質 量 (充電器本体)	約120g		

◆お問い合わせ先 三洋電機株式会社 パワーグループ モバイルエネルギーカンパニー 市販営業統括BU
 市販ユニット国内営業部 販売企画課 (担当： 平井)
 〒570-8677 大阪府守口市京阪本通2丁目5-5 TEL：06-6994-3315

1月度電池および器具販売実績（経済産業省機械統計）

（2006年1月）

単位：数量、千個、金額、百万円

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	437,724	53,995	101%	102%	437,724	53,995	101%	102%
全電池合計	437,080	53,005	101%	102%	437,080	53,005	101%	102%
一次電池計	306,443	9,052	98%	100%	306,443	9,052	98%	100%
マンガン乾電池	52,338	774	83%	77%	52,338	774	83%	77%
アルカリ乾電池計	78,268	3,483	105%	92%	78,268	3,483	105%	92%
単 三	45,134	1,766	115%	107%	45,134	1,766	115%	107%
単 四	22,671	880	106%	94%	22,671	880	106%	94%
その他	10,463	837	75%	70%	10,463	837	75%	70%
酸化銀電池	64,435	723	84%	89%	64,435	723	84%	89%
リチウム電池	94,962	3,252	104%	105%	94,962	3,252	104%	105%
その他の乾電池	16,440	820	202%	213%	16,440	820	202%	213%
二次電池計	130,637	43,953	111%	103%	130,637	43,953	111%	103%
鉛電池計	3,207	11,892	97%	94%	3,207	11,892	97%	94%
自動車用	2,283	7,309	106%	103%	2,283	7,309	106%	103%
二輪用	343	687	105%	102%	343	687	105%	102%
小形制御弁式	373	743	62%	112%	373	743	62%	112%
その他	208	3,153	98%	75%	208	3,153	98%	75%
アルカリ電池計	47,227	9,109	87%	98%	47,227	9,109	87%	98%
完全密閉式	25,144	3,131	86%	92%	25,144	3,131	86%	92%
ニッケル水素	22,075	5,803	88%	102%	22,075	5,803	88%	102%
その他のアルカリ電池	8	175	67%	85%	8	175	67%	85%
リチウムイオン電池	80,203	22,952	133%	110%	80,203	22,952	133%	110%
器具計（自主統計）	644	990	73%	89%	644	990	73%	89%
携帯電灯	378	353	67%	87%	378	353	67%	87%
電池器具	266	637	82%	90%	266	637	82%	90%

1月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2006年1月）

単位：数量、千個、金額、百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	228,536	25,678	92%	108%	228,536	25,678	92%	108%
一次電池計	113,501	2,215	83%	104%	113,501	2,215	83%	104%
マンガン	38,371	453	110%	137%	38,371	453	110%	137%
アルカリ	12,458	207	63%	72%	12,458	207	63%	72%
酸化銀	25,737	334	78%	96%	25,737	334	78%	96%
リチウム	35,437	1,194	77%	109%	35,437	1,194	77%	109%
空気亜鉛	1,397	22	53%	47%	1,397	22	53%	47%
その他の一次	101	4	54%	31%	101	4	54%	31%
二次電池計	115,035	23,463	103%	109%	115,035	23,463	103%	109%
鉛蓄電池	408	444	177%	93%	408	444	177%	93%
ニカド	20,216	2,049	78%	87%	20,216	2,049	78%	87%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	0	—	—
ニッケル水素	8,510	1,892	49%	80%	8,510	1,892	49%	80%
リチウムイオン	65,354	16,094	123%	113%	65,354	16,094	123%	113%
その他の二次	20,547	2,985	131%	138%	20,547	2,985	131%	138%
全電池合計（輸 入）	78,580	7,270	100%	105%	78,580	7,270	100%	105%
一次電池計	68,878	1,350	100%	83%	68,878	1,350	100%	83%
マンガン	18,162	229	80%	90%	18,162	229	80%	90%
アルカリ	43,686	614	122%	100%	43,686	614	122%	100%
酸化銀	497	12	188%	226%	497	12	188%	226%
リチウム	5,157	322	164%	92%	5,157	322	164%	92%
空気亜鉛	635	21	37%	53%	635	21	37%	53%
その他の一次	743	152	15%	43%	743	152	15%	43%
二次電池計	9,701	5,920	96%	111%	9,701	5,920	96%	111%
鉛蓄電池	970	2,143	155%	134%	970	2,143	155%	134%
ニカド	1,983	365	67%	79%	1,983	365	67%	79%
ニッケル鉄	25	24	99%	47%	25	24	99%	47%
その他の二次	6,723	3,388	104%	105%	6,723	3,388	104%	105%